

主に私は4次元球面 S^4 内の閉曲面についてカンドルコサイクル不変量や曲面ブレイドを用いて研究をしています。 S^4 内に埋め込まれた閉曲面を曲面絡み目といい、ジェネリックにはめ込まれた閉曲面を特異曲面絡み目といいます。曲面絡み目は特異曲面絡み目です。J. S. Carter, D. Jelsovsky, S. Kamada, L. Langford, M. Saito らによりカンドルホモロジー理論は開発され、その3-コサイクルを用いて定義された曲面絡み目の不変量をカンドルコサイクル不変量といいます。曲面ブレイドは、O. Viro により定義されました。4次元空間において、古典次元におけるアレクサンダーの定理やマルコフの定理と同様な定理が知られており、曲面ブレイドは曲面絡み目と深く関係しています。また特異曲面絡み目に対しても同様な特異曲面ブレイドが定義されています。また空間グラフやハンドル体絡み目についても研究しています。ハンドル体絡み目とは3次元球面 S^3 内のハンドル体のことで、空間グラフで表されます。以下、これまでの私の研究について述べます。文中の番号は、論文リストの番号と一致します。

1. 3重点解消数. 曲面絡み目上の1-ハンドル手術は、3重点解消操作および結び目解消操作であることがF. Hosokawa と A. Kawachi により知られています。このことから、3重点解消数が定義できます。私は、[3]において、カンドルコサイクル不変量を利用して3重点解消数を下から評価する方法を見つけました。任意の自然数に対して、その数を3重点解消数に持つ曲面結び目が存在することもわかりました。
2. w -index. 曲面絡み目 F の w -index とは、 F と同値な閉じた曲面ブレイドの3重点数の最小数です。カンドルコサイクル不変量を用いて、曲面絡み目 F の w -index を下から評価する方法を見つけました ([7])。とくに、曲面絡み目 F の次数3の2面体カンドルの3-コサイクル θ_3 に関するカンドルコサイクル不変量が非自明なとき、 F の w -index が少なくとも6であることがわかりました。 θ_5 の時に同様の結果を求めたいのですが難しいので、[11]において、位数4の曲面ブレイドの場合に制限して考えました。曲面絡み目 F の θ_5 に関するカンドルコサイクル不変量が非自明であるとし、そのような F が位数4の曲面ブレイドで表した時、3重点は少なくとも10必要であることを示しました。
3. カンドルコサイクル不変量の計算. 私は、位数が奇素数 p の θ_p に関するツイストスパン2橋結び目やツイストスパンプレッツェル絡み目、ツイストスパントーラス絡み目のカンドルコサイクル不変量を計算しました ([2, 4, 5])。
4. 空間グラフやハンドル体絡み目のコサイクル不変量. A. Ishii はハンドル体絡み目のライデマイスター変形を決定し、圭による彩色を定義し、さらに、 θ_p に関するハンドル体絡み目の不変量も定義しました。私と A. Ishii により、有限カンドルによるカンドル彩色、新しいホモロジーやコホモロジー、コサイクル不変量を定義しました。我々の不変量は空間グラフに対する不変量でもあります。我々の不変量はハンドル体の鏡像との同値性や空間グラフの非自明性などに役に立つ事もわかりました。山田多項式で区別できないある2つの空間グラフを区別することもできました。この研究は [8] において紹介しています。
5. 特異曲面ブレイドの crossing change. 横断的な2重点を持つことを許した曲面ブレイドのことを特異曲面ブレイドといいます。特異曲面ブレイドの crossing change とは、特異曲面ブレイド上のシートをつなぐコードに添って、正と負の横断的な2重点の組を挿入することです。[6]では、crossing change が結び目解消操作であることを示しました。同様な局所変形が特異曲面絡み目の結び目解消操作であることは、C. A. Giller により示されています。私の結果を利用するとその Giller の定理も示すことが出来ます。
6. 特異曲面ブレイドの有限型不変量. [1]では、S. Kamada により定義された、曲面絡み目の1-ハンドル手術に関する有限型不変量と同様に、特異曲面ブレイド上の1-ハンドル手術に関する有限型不変量を考えました。その有限型不変量は、2重点数、オイラー標数、法オイラー数だけで決まることがわかります。また、crossing change に関する有限型不変量も定義して、その不変量が、2重点数、各成分のシート数、オイラー標数、法オイラー数だけで決まることが示しました (cf. [6])。
7. ブレイド指数3以下の特異曲面絡み目. 私は、ブレイド指数2以下の特異曲面絡み目が自明な特異曲面絡み目であること、ブレイド指数3の特異曲面絡み目が特異リボン曲面絡み目であることを示しました (cf. [9])。曲面絡み目に対しては、同様の結果が S. Kamada により知られていました。この結果を得るために、特異曲面絡み目 F の w -index が0であることと F が特異リボン曲面絡み目であることが同値である事を示しました。また、ブレイド指数3の自明でない特異曲面絡み目の1-ハンドル手術に関する結び目解消数と crossing change に関する結び目解消数がそれぞれ1であることも示しました。
8. 曲面ブレイドの共役類. アレクサンダーカンドルや群のコアカンドルの彩色を用いて、曲面ブレイドの共役類の不変量を定義しました (cf. [10])。この不変量を用いて、同じ曲面絡み目を表す共役でない同じ次数を持つ曲面ブレイドが存在することを示しました。